

## 『良き先生・良き友・良き読書』～ 役割意識の自覚へと導く ～

2026年5月12日『ひばりが丘駅 → 池袋駅 → 新大久保駅』から、第136回『がん哲学外来メデイカル・カフェ@よどばし』（淀橋教会に於いて）に赴いた。『がん哲学外来メデイカル・カフェ@よどばし』は2014年にスタートして、7月26日には、12周年記念が企画されている。継続の大切さを痛感する。

市川牧子先生の司会で進められた。恒例の『365日の紙飛行機』（作詞:秋元康, 作曲:角野寿和・青葉紘季）の熱唱で始まった。『人生は紙飛行機 --- その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番大切なんだ』 & 『いつの間にか飛ばせるようになる それが 希望 推進力だ』の歌詞が、今回も心に沁みた。筆者は、『スルメ症候群』認定証の3ヶ条(下記)を述べた。

### 『スルメ症候群』認定証の3ヶ条

- 1) 噛(か)めば噛むほどに旨味(うまみ)を感じる
- 2) 噛んで得た旨味が自身の血となり肉となる
- 3) 必要なときに噛み旨味を得ることができる

参加者から『がん哲学』の由来も聞かれた。【『がん細胞の病理』と『人間社会の病理』の類似性が、2001年の『がん哲学』の提唱の原点である。つまり、『がんは生物学の法則』+『哲学は人間学の法則』=『がん哲学』である。そして、2008年 順天堂大学病院で『病気』であっても『病人』ではない社会の構築を目指して『がん哲学外来』（添付）が開設された。】とさりげなく語った。

また、【人生邂逅の3大法則 ～『良き先生・良き友・良き読書』～ 。『筆者の読書遍歴は、内村鑑三(1861-1930)・新渡戸稲造(1862-1933)・南原繁(1889-1974)・矢内原忠雄(1893-1961)』である。『ビジョン』は人知・思いを超えて 進展することを 痛感する日々である。『役割意識 & 使命感』の自覚へと導く。悩みの『解決』ではなく『解消』することが目的である。対話により、その人の中での悩みの優先順位が下がれば、それを問わなくなるそれを『解消』と呼ぶ。】と紹介した。会場からは、質問もあり、大変有意義な充実した時となった。そして、『糸』（作詞 & 作曲:中島みゆき）の合唱で終えた。いろいろな繋がりが生まれる貴重な『がん哲学外来メデイカル・カフェ@よどばし』となった